

## AKI-H8-USB 動作確認

動作中の写真：

以前の親基板というかマザーボードは、ユニバーサルボード的な色合いが強かったのですがこの親基板は、ユーザの要望をかなり反映してるみたいで、単に USBインターフェースが付いているにとどまらず、かなり使い勝手を改善しているようです。



構成は、USBインターフェースが付いた親基板上に、CPU基板と LCDが乗った形になっています。

AKI-H8-USBは、USBバスからの電源（+5[V]）で動作可能です。  
 （基板上に小さいDC-DCコンバータ（+12[V] 30[mA]）が搭載されており  
 それにより書き込み電圧を生成しています。）  
 （別電源から動かせるようにも配線を変えることが出来ます。）

プログラムのダウンロードは、基板上のスイッチを WRITE状態にして RS-232Cインターフェースにて行います。

USBは、送受信バッファ64byteを実装する専用LSIにて行われます。

I/Oの信号線は、親基板左側のピンから取り出せます。

親基板下側には動作テスト用のスイッチとLEDが4つづつ実装されています。

オプションで、親基板裏側にフラットパッケージのS-RAMチップ1個を  
 がマウント出来るようパターンがあります。  
 （容量は、128Kbyte または 512kbyte）

## USB動作テスト：

添付 CD-R には、製作時の写真や、テストプログラム動作中のAVIファイルが格納されています。もちろん、開発環境もです。

そのなかで、動作確認用のテストプログラム *usbjoy*を動作させてみました。  
もう一つ、*usbtest*というプログラムもあったのですが、そっちは Windows98の環境のせいか正常に動作しませんでした。（Windows側のドライバの組込みに失敗しているようです。）

*usbjoy*は、AKI-H8-USB基板を 6 ボタンのジョイスティクに見せかけてWindowsに認識させるテストプログラムです。

AKI-H8-USB側のスイッチを押すとその情報が USB経由でWindowsに認識され ジョイスティクのプロパティのテスト表示にてモニターできます。

